

基 調 講 演

「必修講座のモデル・カリキュラムの開発状況について」

日本教育大学協会

免許状更新講習に関するプロジェクト委員

梅 澤 収(静岡大学教育学部)

はじめに

I 教大協のプロジェクトの開発について

(1)設置の目的

(2)取り組みの内容

- ・ 参加大学で分担協力して講習の内容の具体的イメージを提示
- ・ 地域性や選択事項を考慮した枠組みとする
- ・ 授業展開や修了試験等の評価手法についても盛り込む
- ・ Face to Face の授業のよさを活かす

(3)今後のスケジュール

- ・ 放送大学との情報交換
- ・ 受講者への必修講習のアンケート分析
- ・ 講習担当教員に対するアンケートの実施と集計
- ・ まとめ報告(来年3月)

(4)今後の課題

- ・ テキスト化

II 静岡大学の予備(試行)講習を終えて

①試行講習のねらい

- (1) 静大と常葉学園大が、企画調整—募集—実施のサイクルで更新講習の試行を実施することで、実務面及び講習デザインと授業面等の成果と課題を集約する。
- (2) 県内大学の組織する「大学ネットワーク静岡」全体で、平成21年度以降の「更新講習体制」の構築を目指すための基盤的試みとする。
- (3) 更新制度の趣旨、やり方及び講習内容等を、各教委・各学校園・教員等に周知し、考える機会とする。

②静岡大学予備講習・必修講習は、「教職」担当と「子ども・心理」担当の2人で行った。

- (1) 2人でペアを組み、必修講習2日の内容について、各1日で分担する。
- (2) 80名＝1クラスで2クラス同時に開講し、2日で160名を担当する。これを2回行えば、320名が担当可能となる。(実際は100名であった。やはり負担感がある)
- (3) 受講者には、テキスト等を用意し、あらかじめ内容を学習してきてもらう。
- (4) 各担当者は、講義→ワークシート作業→グループ討論で授業構成する。

＊そのために準備したもの

- ・ 授業担当部分のスケジュール・進め方・班編成等まとめた要項
- ・ 授業担当部分の講義のためのレジュメ・資料
- ・ 体験や思考及び論点・課題を整理するための個人用の作業シート
- ・ グループ討論シート
- ・ 試験問題

- (5) 修了認定の試験を行う。問題作成と採点。

結論:3人程度の教職課程担当教員による必修講習の創設は十分可能である。

③試行講習の実施後の感想及び課題

- ・ 準備が大変だったが、当日の授業展開自体はスムーズに行く(もちろん疲れるが)。
- ・ 受講者も基本的には授業展開に好意的であった。
- ・ ただし、講義内容やワークシートの項目やグループ討論のテーマ設定や時間配分など、まだまだ検討すべき課題は多い。

Ⅲ 本実施に向けて行うべき条件整備について

① 共同の事務機構の設立

- ・ いつ／どこに／どのように／組織のルール作り / ・ 県教委がどのように関わるか

② 県内の講習の本数・種別・内容等をトータルに調整し、提示する組織の必要性

○別紙「参考資料:静岡県の場合」を参照

おわりに

- ・ 更新講習を、教職の専門職性の確立に資するものに
- ・ 大学が現職教員との回路を創ることの意義

- ・ 実践的な見地から、改善点の整理と修正を

【参考資料】 静岡県の更新講習の本実施について

I 静岡県の受講者予測

*2007.12.25 に文科省より公開された資料に基づく(静岡県の場合は、07.5.1 現在の資料)

○各都道府県の各地域(教育事務所単位等)の学校種ごとのおおまかな教員数(私学も含む)

○免除対象者(校長、園長、教頭)は、除外。○非常勤講師について計上するが重複の可能性あり

	幼	小	中	高	特支	養護	
合計							
①静東教育事務所	1,210	3,623	2,363	2,852	643	365	10,691
②静西教育事務所	1,111	3,169	1,877	2,257	455	281	8,869
③静岡市	608	1,921	1,403	1,931	497	176	6,360
④浜松市	1,024	2,355	1,504	1,969	433	219	7,285
⑤公立学校以外					10	46	46
合計	3,953	11,068	7,147	9,009	2,038	1,087	33,205

*東部 1100 人、中部 1100 人、西部 1100 人で合計 3300 人の受講機会を確保する。

II 更新講習のあり方

1. 授業の基本設計

30 時間(60 分=1 時間。1 日6時間×5 日) 必修(12 時間:6 時間/1 日を 2 日) 選択(18 時間:6 時間/1 日を3日)

*1 日 6 時間は、必修・選択ともに、90 分 1 コマを基本として最後に60分の修了試験。

* 必修講習で扱う講習内容の分担

教職担当教員 ①と③と【H】 【abclopuv】 内容①(A・B・F) 内容②(E・H)

心理担当教員 ②と④【G】 【defkqt】 内容③(C) 内容④(D・G)

* 授業設計【基本例】 時間数(12 時間:1 時間=60 分/1 日)

①オリエンテーション(1 日の概要) 10 分

②講義 I 70 分 内容①の概要講義

③ワークシート I 20 分 *3 から 4 の課題考察

④グループ討議 I 60 分 *8 人のグループ討議

[自己紹介・司会・記録係決め(5)、課題報告(一人 3×8)、自由討議(31)]

⑤まとめ 20 分 *討議のまとめと質疑応答

(昼休み)

⑥講義 II 45 分 内容②の概要講義

⑦ワーク・シート II 15 分 *3 から 4 の課題考察

⑧グループ討議 II 40 分 *8 人のグループ討議

[課題報告(一人 2×8)、自由討議(24)]

⑨まとめ 20 分

⑩試験 60 分

⑪事後アンケート

*この手法を基本にして、他大学の教職・心理関係の教員に担当を依頼する。

*選択講習1日の授業デザイン設計でも利用できると思われる。

2.クラス規模

①1クラス80人規模 東部14クラス(1120人)、中部14クラス(1120人)、西部14クラス(1120人)

【試行で実施してみる】

*他に、②1クラス100人規模(*現実的だが、グループワークや会場の確保から中途半端な規模)、③1クラス160人規模(教室の確保や授業の工夫が必要。効率がいいが受講者から不満がでる心配)等がありうる。

3.開設時期(3プラン)

①Aプラン【夏季集中プラン】：夏休み 8月18日～25日(8日間)約55% *免許種ごとに配慮

②Bプラン【秋プラン】：9月～11月までの土日利用 (約30%)

③Cプラン【駆け込みプラン】：12月と1月の土日 (約15%)

④Dプラン【マイペースプラン】放送大学や通信を利用 () *未知数

4.開設時期別本数	8月		9月～11月土日		12～1月土日		合計	
	必	選	必	選	必	選	必	選
○東部 (1100人)	8	16	4	8	2	4	14	28
○中部 (1100人)	8	16	4	8	2	4	14	28
○西部 (1100人)	8	16	4	8	2	4	14	28
	24	48	12	24	6	12	合計42	84

*必ずしも、必修→選択という必要はない。必修の内部順序も、教職→子どもでなくてもよい

*「9月～11月土日」及び「12月～1月土日」は、東西と中で開催日をずらすことも検討する。土日【必修日】とし、3連休【選択日】とする。

Ⅲ 協議の進め方の提案

1.基本的考え方

①養護教諭と特別支援、幼稚園は特別な扱いが必要なので、県教委・私学協会・幼稚園団体等の担当者に関連の学部・学科の代表者が集い、開講のあり方を協議する必要がある。

②以上を推し進めると、高校免は高校教育課で、小中免は義務教育課という対応もあり得る。

以上のようにしないと、具体的に、「自分の担当課にどれだけの開講本数が必要か」「その開講本数・内容をどう実現するか」という課題に進まず、大学側は誰かやるだろうという状況のまま。

③講習の開講本数の問題は、県教委と大学の協議事項なのに、どちらがさきかで様子見の状態です。先に進まない。→呼びかけは「県教委」側であるべきと思う。

2. 具体的提案（大学・短大の関わり方です。これに送り手代表が各部会に参加協議する構想）

	幼	小	中	高	特支	養護	合計	
①東部	1,100人	130	360(610)	250(550)	300	70	40	1,150
②中部	1,100人	150	400(650)	250(600)	350	100	40	1,290
③西部	1,100人	120	350(600)	250(600)	350	100	40	1,210
合計		380	1,110(1,860)	750(1,750)	1,000	270	120	3,650

以上のデータを参照にしながら、下記の部会に分かれて、必修講習及び選択講習の本数・講師・地域別配置などを検討する。

1. 幼稚園部会（380名） 幼稚園免許取得可能な大学・短大で企画調整する。
* 静大教育の幼児教育、常葉学園大学及び常葉短大の幼児教育、富士常葉大学、浜松大学、浜松学院大学、静岡産業大学(08年度新)、聖隷クリスタファー(08年度新)、英和学院大学等
2. 養護教諭部会（120名） 養護教諭の免許取得可の大学及び協力大学で企画調整する。
* 静大教育の学校保健講座、県立大看護学部、聖隷クリスタファー大看護学部、東京女子医大・大東キヤンパス、浜松医科大等
3. 特別支援教諭部会（270名） 静大の特別支援教室、協力大学、及び特別支援学校の協力で企画調整
* 協力大学：静岡福祉大、聖隷大、英和大など福祉を置く大学。
4. 高校教諭部会（1,000名）
静大・県立大、及び高校教諭養成課程を置く大学で企画調整する。なお、中・高(1,750名)でも考えてみる。
5. 小学校教諭部会（1,110名） 静岡大学教育学部と常葉学園大学で協議する。
6. 中学校高校教諭部会 小中（1,860名）、中高（1,750名）の扱いについて協議する。
4と5の合同で検討する。

IV 本施行(H21年度)にむけたその他の取り組みと課題

- ①3300人/年間(予定)に対して、静大1600人、常葉大600人の現状
- ②3/6シンポの意義 更新制の啓発。課題の共有。
- ③ 試行事業を通じた大学(大学ネットワーク静岡)と県教委の連携

【今後の最重要課題】

1. 県内の3300人の講習規模とその内容をどう構築するか
2. 共同事務機構をつくることの必要性の検討 *11月頃までには目処をつける必要
・いつ ・どこに ・どのように
・組織のルール作り ・県教委がどのように関わるか
3. 県内の試行成果報告及び県内更新講習体制シンポ 10月開催？

V 試行講習(H20年度)に関する日誌（文科省「試行」補助事業の採択後2008年4月9日）

- ①静岡大学 第1回更新対象者(約3300人)に対するアンケート調査
試行講習→東部80名、中部80名を予定。全免許種対応

- * アンケート回収数は2,670名（回収率は受講対象者予測を3,000名とすると約90%）
受講応募者数は、静大会場760名、日大三島会場514名。定員を各100名とする。

②常葉学園大学 試行講習→西部80名、中部80名。小学校教諭免許対応 *定員各100名

1. 試行の位置づけ

- ・県内大学の組織する「大学ネットワーク静岡」で、県内「更新講習体制」の構築を目指す。
- ・静大と常葉学園大が試行を実施し、その成果と課題をふまえて、全県体制の具体化を図る。

2. 作成したもの

「募集案内」、「試行講習概要」及び「試行講習要領」／「試行受講申込書」
「第1回更新対象者に対するアンケート調査」／鏡文

3. 募集やアンケートの方法

①第1回更新対象者へのニーズ調査と試行(予備)講習の募集を学校単位で同時に実施する

- *基本的に、各学校が対象者を認定しアンケート調査を行う。同時に、試行受講を希望する者は募集案内・要項を参照して申込書に記載し、提出する。

②そのための、関係機関への依頼又は承認をすすめる。

- ・【公立小中】 県教委→政令市・市町教委→各学校→（郵送）→静大
- ・【県立高校・特支学校】 県教委→学校→（郵送）→静大
- ・【私学（幼稚園含）】 県教委・私学振興課→私学協会→学校→（郵送）→静大
- ・【公立幼稚園】 県教委→市町教育委員会→幼稚園→（郵送）→静大
- * 結局、県教委からメールで送り、各学校から郵送してもらった（郵送料は各学校園負担）。

③スケジュール(実際の経過)

4月

- ・文科省・試行委託事業に関する書類の提出
- ・東部地区の会場校（日本大学国際関係学部）との打合会
- ・県教委と常葉大学と静岡大学の合同の打合会

5月

5月10日 アンケート及び募集要項等の確定と県教委を通じての各学校園への発信
静大HPへの要項等の掲載

5月30日 アンケート及び受講申込書の回収締め切り日

6月

- ①アンケート →集計と分析（9月末まで） *集計は静大で。分析は合同で
- ②受講申込書 →東部80名（100名）と中部80名（100名）の確定（6月中旬）
配慮事項 ①免許種（幼・小・中・高・特支・養護）／②地域／アンケート数
*抽選方式 →受講者の確定後、「選択講習」の決定（仮名簿作成）
- ③受講者への通知と手続き書類の送付（6月中旬）
*各学校長（625校）あて可否結果を郵送。同封で受講当選者に必要書類を送付（6/13）。
 - ・正式申込書（6/27まで）（最終名簿の作成）
 - ・受講内容調査→取扱い（講習担当者に回覧）

④予備講習の課程認定関係の書類の作成と提出

⑤必修講習のテキスト類「レジュメ・資料集」の作成（6月中～8月上旬まで）

- ・教職担当教員を中心に、必修内容の分担
- ・1次稿から第3次稿までの編集・校正の作業
- ・最終稿を静大HPにPDFファイル掲載（8/6） *受講者は各自ダウンロードして持参。

7月

- ・7月23日 事務担当者の打合会

- ・ 7月28日 受講者に「手引き」（最終案内）を送付
- ・ 7月31日 担当講師に対する事前打合会

8月

- ・ 8月中旬 講習当日の参観依頼（県教委・県立大等、学内）を行う。
- ・ 8月4日 東部会場・日大三島会場の事務打合会
- ・ 8月13日 事務担当者の打合会
- ・ 8月19日 事務担当者の打合会
- ・ 8月20日～24日 予備講習の実施
- ・ 9月1日 成績結果の提出〆切
- ・ 9月4日 静岡大学・教員免許更新講習検討委員会
- ・ 9月23日までに 修了認定書の送付予定。あわせて、希望者には成績結果の本人通知。